

山口県立萩美術館・浦上記念館

H A G I |

HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE

萩

109

AUTUMN ISSUE
2023



「アートグラス」や「ユニークピース」が放つ個性と創意

「フィンランド・グラスアート
輝きと彩りのモダンデザイン」展に寄せて
土田ルリ子

昨今、日本でもフィンランドを含む北欧の家具やインテリア、飲食器への関心は高く、ご自身の生活に取り入れられる方々も少なくないだろう。また、関連する展覧会も多く、山口県立萩美術館・浦上記念館において「フィンランド陶芸展」が開催されたことも、記憶に新しい。

本展は、1917年にロシアから独立を果たしたフィンランドが、新しい国作りと国民のアイデンティティを取り戻すためにモダニズムを推し進める中、いか

にしてデザイン力を国家の強みとして育てていったか、その一つとしてグラスアートがどのような発展を見せたかを紹介する試みである。出品作品は台頭期に当たる1930年代に始まり、万国博覧会やミラノ・トリエンナーレを中心に花開いた1950年代から70年代にかけての黄金期、そして国際化、多様化の著しい現代までに制作された約140作品で、フィンランドを代表する7名のデザイナーと一ガラス作家によるものである。作品選定においては、量産品を極力除外し、デザイナーが「アートグラス（フィンランド語でtaidelasi）」、あるいは「ユニークピース（フィンランド語でuniikki）」と銘打って制作したグラスアートに焦点を当てることとした。前述の通り、独立後モダニズムが推進されたフィンランドでは、ガラス製品にも先進的なデザイン性が求められた。1920年代には、通常の製品よりも芸術性が高く、エレガントな表情を持つガラス製品を「アートグラス」



fig.1 カイ・フランク《アートグラス、ユニークピース》部分 1970年代前半 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所

と呼ぶようになり、1940年代になるとこの用語は、プロのデザイナーが手がけた製品のうち、実用品や日用品を除くすべてのガラス製品を指す言葉となっていた。また「ユニークピース」は、ヌータヤルヴィ・ガラス製作所が「アートグラス」に一層自由なアプローチを求めて制作した一点物のことを指す。

これらは最初から汎用性を主眼とした量産品とは異なり、個々のデザイナーたちの自由な発想や意思、また技法の実験の試みが反映されている。例えば、1951年からヌータヤルヴィ・ガラス製作所のアーティスティック・ディレクターを勤めたカイ・フランクの作品を見てみよう。一般的に彼のデザインは、アラビア製陶所が1953年に発売した「キルタ」シリーズに見られる、丸・三角・四角で表現されたミニマリズムに代表され、明確でシンプルなラインが特徴と捉えられてきた。しかしひとたび、彼が「ユニークピース」の名の下に制作した作品は、色彩もフォルムも個性豊かで明瞭な表情を持ち、柔らかな歪みは愛嬌すら感じさせる(fig.1)。同時に、おそらくはヴェネチアン・グラスに憧れる彼の技法の実験の試行錯誤や、艶やかで無色透明であることに留

まらないガラスの可能性への挑戦が垣間見られる(fig.2)。

これと対照的なのが、ティモ・サルパネヴァがデザインした作品の数々であろう。淡色ガラスのシリーズもデザインしたが、彼が最も才能を発揮したのは、無色透明のクリスタル・グラスによる、クリスタル・グラスのためのオブジェであろう。自身のデザインは常にアートのためにあると自負した彼は、「世界で最も美しいオブジェクト」と称賛された「蘭」や、「カヤック」(fig.3)を1954年や57年のミラノ・トリエンナーレで発表し、クリスタル・グラスの研ぎ澄まされたフォルムこそが帯びる瑞々しい輝きで人々を魅了した。きわめて洗練されたデザインもさることながら、彼もまたここで技法的な実験を成功させている。両者に開けられた泡形の空洞は、ガラスが熱いうちに挿した天然木の水蒸気が膨らませた自然による吹きガラスなのである。本展において、個々のデザイナーや作家たちの豊かな個性や旺盛な創意工夫を、少しでも感じとっていただけたら幸いである。

(富山市ガラス美術館館長・本展監修者)



fig.2 カイ・フランク《アートグラス、ユニークピース》
1970年代初頭 ヌータヤルヴィ・ガラス製作所



fig.3 ティモ・サルパネヴァ《カヤック[3867]》1954年 イッタラ・ガラス製作所

展示室1〈浮世絵〉

めいじ やくしゃ え
明治の役者絵

【会期】10月11日(水) — 11月12日(日)

明治時代、役者絵の分野で最も活躍した絵師は豊原国周です。国周は江戸の名残をとどめた表現で役者絵を描き続けました。また、演劇界では活歴劇や散切狂言といった新しい種類の歌舞伎が加わり、役者絵にもこれらに取材した作品がみられるようになります。今回は国周の作品を中心に、明治時代の役者絵を紹介します。



豊原国周
「げいしや三代吉 坂東三津五郎」
大判錦絵、明治2年(1869)
当館蔵(浦上敏朗氏寄贈)

展示室1〈浮世絵〉

ちゅうしんぐら
忠臣蔵

【会期】11月14日(火) — 12月24日(日)

元禄15年(1702)12月、大石内蔵助ら赤穂浪士47名が、本所の吉良上野介の屋敷に討ち入り、亡君の赤穂藩主浅野内匠頭の恨みをはらすという赤穂事件が起きました。この事件は、後に人形浄瑠璃や歌舞伎などに脚色され、さまざまな演目が上演されていきます。なかでも、人形浄瑠璃として寛延元年(1748)に初演された「仮名手本忠臣蔵」は、仇討に関わる人々の葛藤や苦悩、人間の生死、恋愛を丁寧に描いて圧倒的な人気を博しました。今回は、浮世絵に描かれた「忠臣蔵」をお楽しみいただきます。



勝川春山
「とうせい女忠臣蔵 四段目 城渡の段」
中判錦絵、寛政(1789~1801)初期
当館蔵

展示室2〈東洋陶磁〉

とう はな さんさい
陶の華 三彩

【会期】2023年11月14日(火) — 2024年4月14日(日)

中国・唐時代(618~907年)に緑釉、褐釉、白釉(透明釉)の三色、もしくは藍釉も加えた多彩な鉛釉をかけ合わせた唐三彩は、中国陶磁の中でも最も色彩豊かなやきものとして今日知られています。20世紀初頭になって発見された唐三彩は、各種うつわ類と、馬や駱駝、人物といった像(俑)があり、当時の王侯貴族の墳墓を彩るために埋納された明器(副葬品)として用いられました。



藍三彩宝相華文三足盤
中国 唐時代 8世紀
当館蔵(浦上敏朗氏寄贈)

本展では、東西交流による国際色豊かな文化を生んだ唐時代に、その華麗な花を咲かせた唐三彩のやきものを中心に展観し、その後も新たに展開した遼三彩や金~元時代の三彩、明時代の法花といった歴代の三彩の陶磁器もあわせて紹介します。



展示室7〈陶芸〉

み わ きゅうせつ と う
十三代三輪休雪の陶

【会期】2023年12月12日(火) — 2024年6月23日(日)

十三代三輪休雪(本名・和彦。昭和26年<1951>生まれ)は、三輪
 壽雪(十一代休雪)の三男に生まれ、令和元年(2019)兄三輪龍氣生
 (十二代休雪)の跡を承けて襲名し、400年の歴史を持つ萩で作陶
 しながらも、常に土の生の主張を聞き続け、素材である土と対峙し、その
 鋭敏な感性と強靱的な身体能力を駆使して、これまでにないスケールの
 大きな陶の造形を生み出してきました。

今展では、十三代休雪が自らの身体を使って土と交わり格闘し続けた生きた証ともいえる《恒久破壊 I》(1987年)
 をはじめ、土が根源的に秘めているエネルギーを最大限に引き出した十三代休雪の作品を展示し、改めて土への
 覚醒と陶芸に内在する限りない表現の可能性を提示するものです。



十三代三輪休雪《恒久破壊I》1987年 当館蔵

展示室8〈工芸〉

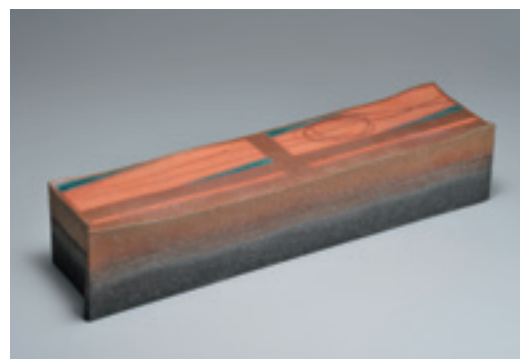
山口県の伝統工芸 I

【会期】2023年12月12日(火) — 2024年3月10日(日)

伝統工芸は、先人から受け継いだ工芸技術をもとに、いまでも進化
 を続けるものです。かつて、日常の器や調度品は、手仕事によって作ら
 れたもので成り立っていました。しかし、社会の近代化にともない、もの
 づくりの機械化が進み、現代ではどの工芸分野も存続が厳しくなっています。

しかし、歴史を重ね培われてきたわざには、未知数の可能性があります。ものの機能を高めることや、美的表現に
 おいても引き継がれたわざをベースにして自由度を高め、目にしたことのない感動を生み出し続けていると言っても
 過言ではありません。

山口県では、さまざまにある工芸のうち「萩焼」「赤間硯」のわざを無形文化財として指定し、保護しています。
 本展覧会では、山口県ゆかりの近現代作家による「萩焼」の作品を展示し、この地域にしかない、卓越したわざを
 紹介します。



大和保男《波濤海流文長方陶管》2005年 当館蔵



館鼻則孝 Distance

【会期】4月8日(土) ~ 2024年3月24日(日)

SCHEDULE 令和5年度(10月~12月)

休館日 ★ イベント ● ギャラリー・ツアー ◆ ギャラリー・トーク

10

OCT

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	
展示室1	●					★	★◆	★●	★						★◆	●							●									
展示室2																																
展示室3~6																																
展示室7																																
展示室8																																
特選鑑賞室																																
茶室																																

11

NOV

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日		
展示室1	★	★	★	★	★●	★	★				◆	●												★								
展示室2																																
展示室3~6																																
展示室7																																
展示室8																																
特選鑑賞室																																
茶室																																

12

DEC

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	
展示室1			●																					◆								
展示室2																																
展示室3~6																																
展示室7																																
展示室8																																
特選鑑賞室																																
茶室																																

*1 フィンランド・ガラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン(～12/3) *2 ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展—食べること、共に生きること—(～12/3) *3 第9回現代ガラス展 in 山陽小野田 特別作品展(～12/3)

★ イベント

月夜のナイトミュージアム

- ①ミュージアムライトアップ
【日時】10月6日[金]～10月9日[月・祝] 18:00～21:00 ※荒天中止
- ②19時30分まで開館延長
【日時】10月7日[土] 9:00～19:30(入館は19:00まで)
- ③ムーミン・ライトショー
【日時】10月7日[土] 18:30～20:30(20分間隔で実施) ※荒天中止
- ④劇場版 ムーミン谷の彗星 ハベット・アニメーション 吹替版上映
【日時】10月7日[土] 16:00(上映1時間15分) 【会場】講座室
- 【定員】70席 15時から配布の整理券と特別展示観覧券が必要
- ⑤自分でつくるムーミンのぬいぐるみ
【日時】10月8日[日] 10:00～、13:00～、15:00～(各回60分)
- 【会場】多目的室(陶芸館)
- 【定員】各回12名 2,500円と特別展示観覧券が必要
- ※針と糸を使用するため対象は小学生以上。要予約、受付はWEBのみで9月18日9時から開始

開館記念日

- 【日時】10月14日[土] 9:00～16:30
- 【内容】普通展示が入場無料のほか、お好みのガラススタイルでフィンランドガラスアートをイメージしたコースターを作る(先着100名、申込不要)
- 【会場】エントランスロビー

教育・文化週間

- 【日時】11月1日[水]～11月7日[火]
- 【内容】①普通展示の観覧料無料
- ②「名品からの挑戦状!浮世絵まちがいがし」まちがいがしに参加、正解された方に美術館オリジナルグッズをプレゼント(なくなり次第終了)

特設 book コーナー

- 【日時】9月16日[土]～12月3日[日]
- 【内容】フィンランドとムーミン関連図書の展示紹介
- 協力:山口県立山口図書館
- 【会場】レファレンスコーナー

秋は萩美へ行く11月

- 特別展示関連イベント[11月3日(金・祝)]、萩焼交流企画[11月19日(日)]、ミュージアムコンサート[11月23日(木・祝)]を開催予定
- ※詳細は10月上旬公開予定のチラシ、ホームページでご案内します。

◆ ギャラリー・トーク

(担当学芸員による展示作品解説)

- いずれも11:00～(30分程度)
- ◆10月 7日[土] 浮世絵と文学
- ◆10月14日[土] 明治の役者絵
- ◆11月11日[土] 日本人が愛した古染付
- ◆11月25日[土] 忠臣蔵
- ◆12月23日[土] 山口県の伝統工芸I

臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。

詳しくは当館ホームページをご覧ください。



公式 HP

【お問い合わせ】TEL 0838-24-2400

※ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。
※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。

交通アクセス

【新山口駅から】

- 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩・明倫センター下車、徒歩約5分
- 防長バス(約90分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】[萩・石見空港から]

- 萩近鉄タクシー(乗合タクシー) 約70～80分(利用前日までに要予約)
- JR山陰本線 「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小郡萩道路」絵堂ICから約20分
- 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い

【JR山陰本線】

- JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
- JR東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
- JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】



最新情報は公式 SNS で